

マグちゃん通信

2019 6 - 7 vol. **56**

絵本作家インタビュー 加藤休三

特集 絵本のある居場所



寄贈絵本のご紹介

ご寄贈いただいた最新絵本の中からスタッフのおすすめの絵本をご紹介します。



『ちよっとだけ ちよっとだけ』
きむらゆういち／作
まえはらあきこ／絵
絵本ナビ



『ひなにんぎょうができるまで』
田村孝介／写真
人形の東玉／監修
ひさかたチャイルド



『ゆうたのおじいちゃん』
きたやまようこ／作
あかね書房



『おにぎりに はいりたいたやっ ぶつといで』
岡田よしとか／作
佼成出版社



『まちにまったおでかけのひ』
東川りえ／作
絵本館



『おむすびころりん』
さいとうしるふ／作
あすなろ書房



『カーたろうとこけしっぺ』
山田美津子／作
理論社

楽しく一人暮らしをしているカラスの「カーたろう」が
出会ったのは、こけしの「こけしっぺ」。二人暮らしが始
まったと思ったら…。次々に起きる予想外の出来事に奮闘
する「カーたろう」と、表情がないのになぜか表情豊かな
「こけしっぺ」が笑いを誘います。最初と最後以外は絵の
みで進んでいく文字のない絵本。細い線と淡い色合い
で描かれた不思議な魅力を持つ絵から、「カーたろう」と
「こけしっぺ」のにぎやかなおしゃべりが聞こえてきます。

絵本館日記



3月18日(月)

毎年招待されている、絵本作家の方々の団体で童美連の懇親
パーティーが東京の中野サンプラザで開催されたため、上京し
て出席させていただきました。お世話になっている出版社や事
務局の方々とお会いできて有意義な一日でした。

3月24日(日)

原画展開催中のいわいとしお先生の100階建ての家をつ
くるワークショップ、多くの親子連れが参加され、パフォーマ
ンスホールは大賑わい！完成したものを、シアターのバトンに
20階の家を五本、完成の記念写真を撮りました。ライトアップ
したので立派なお披露目会になりました。

3月27日(水)

春休みということで、祖父母とお孫さんで来館される方が多
くなっています。ワークショップやCGワークショップで楽し
んで制作され、出来上がりに満足な子どもたちの顔がたくさん
見れて良い一日でした。

4月2日(火)

年度始めの辞令交付式を行なわれ、理事長からの訓示があり
ました。4月からの新しいスタッフも入って気分一新してフレッ
シュな気持ちで仕事に取り組みたいと思います。新しいスタッフ
も早く仕事に慣れて皆さんに笑顔で対応できるように指導し
ていきたいと思います。

4月14日(日)

絵本館のパークの桜の木も満開になり、春らしい天気が多く
なってきました。昨春秋に植えた花壇のチューリップも綺麗に
咲き始め、親子連れがパークでお花見しておられる、微笑まし
い姿を見ることができました。

(記録・土田)

利用案内

開館時間 9:30～17:30

休館日 毎週月曜日(祝日の場合翌日)
月1回資料整理日
年末年始(12月28日～1月4日)

入館料 大人600円、高校生300円、小中学生100円
※団体20名以上は割引あり 団体幼児はひとり50円
※各種福祉手帳をお持ちの方は無料

交通案内 北陸自動車道小杉ICより車で10分
富山きときと空港より車で40分
あいの風とやま鉄道小杉駅より車で5分
※新幹線はJR富山駅またはJR新高岡駅で下車
富山地鉄バス・富山高岡線「赤井口」下車徒歩7分

駐車場 約60台

フリーパス
個人フリーパス 年間1200円
親子フリーパス 射水市在住で、小学生未満のお子様の
保護者の方は無料
いみず市こどもフリー 射水市在住の中学生以下は無料。

貸館 カフェギャラリー、シアターは貸しスペースです。
個展、コンサート、発表会などにご利用ください。
講座 絵本作りや読み聞かせ、講演などの出前講座
を行っています。



射水市大島絵本館
OSHIMA MUSEUM OF PICTURE BOOKS

マグちゃんは絵本館のシンボルマークです

〒939-0283 富山県射水市鳥取50
TEL 0766-52-6780 http://www.ehonkan.or.jp
FAX 0766-52-6777 E-mail ehonkan@po9.canet.ne.jp

かとう やすみ 加藤 休三

面白いと感じたことを
絵と噺が出来上がる瞬間がある。
そのタイミングを見逃さない。



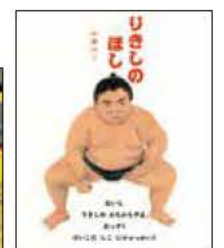
加藤休三（かとうやすみ）プロフィール

1976年生まれ。北海道出身。
クレヨンとクレパスを用いた独特の画法と迫力あるタッチで、ノスタルジックな情景や滑稽味のある人物画、食べ物のリアルでおいしいような描写を得意とする。絵本に『きょうのごはん』（偕成社）『かなじおどり』（BL出版）『ぼーろとくも（らいおんbooks）』（風濤社）『クレヨンで描いたおいしい魚図鑑』（晶文社）などがある。また『ながしまのまんげつ』（林家彦いち原作、小学館）『いのちのたべもの』（中川ひろたか著、おむすび舎）など、絵本の挿画も多数手がけている。

絵本原画展開催

2019年6月1日(土)～7月18日(木)

原画展示絵本



「りきしのほし」『イーストプレス』
おいらりきしの かちかちやま。
楽しみはちゃんこの時間と花を
育てること。毎日毎日きびしい稽
古をしても全然強くなれません。
やめたくなくなりましたけれど、
心を入れ替えてもつと稽古に励
んで、強い力士を目指します。
そしていざ本番！



初夏のギャラリーでは、『りきしのほし』と『おさかないちば』の2冊をご紹介します。
迫力ある相撲部屋の様子と本物と見間違えるほどリアルな魚達をお楽しみ下さい。

加藤休三先生に インタビュー



絵本作家になられたきっかけは？

絵を描いていて、気がついたら絵本作家と
呼ばれるようになっていました。

画材は何を使っていますか？

クレヨンとクレパスです。どの画材よりも、
私の手に馴染んでくれて、思い通りの絵が
描けます。

今回、原画を展示する絵本の制作秘話や
思い出を教えてください。

『りきしのほし』
肉まんはもつと美味しく描けるんじゃない
かと思ひ、絵本が出来た後、もう一度描い
てみました。まあまあな仕上がりましたが、
もつと美味しく描けるようになりました。

『おさかないちば』

築地市場に朝5時から取材へ行き、そこ
で知ったことをこの絵本に描きました。働く
人の姿や、年齢層の広い女性もたくさん働
いていて、この取材の前に、何度か築地に
通っていたので知ったつもりでしたが、早
朝の仕事場はまた別でした。（のちに一般観
覧は9時以降とルールができ、早朝の見学に
は取材許可が必要になった。）

今まで手がけられた絵本の中で、一番印象
深い絵本は？

『かなじおどり』です。自宅で起きた
不思議な出来事から、九十九神があるよう
に、その土地に何か宿るものがあるんじや
ないかな…と想像を膨らまし出来上がった
作品です。昔話のような創作絵本も注目
していただけたら嬉しいです。

絵本をお作りになるときのこだわりは？

自分で興味のある世界や出来事、妄想か
ら、面白おかしく伝わり易すぎず伝わり易
いことが浮かんだ時に、それが形になった瞬
間を掴むタイミング、これを見逃さないよう
にすることです。

絵本を通じてお伝えになりたいことは？

ストレートに感じていただければそれで
十分です。

今後どのような絵本を描いていきますか？

特に方向性は決めません。霞のように
描いていきたいです。

ご趣味についてお聞かせください。

現在は将棋に夢中です。将棋をさしたい
です。将棋が楽しくなって注目するようにな
り、自分の好みはグループ競技ではなく
一対一の競技だと、やっと自分自身のこと
がよく分かってきました。相撲も一対一の

競技ですからね(笑)。将棋は相撲よりゆつ
たり冷静に見られて、次の一手を予想する
時間もたっぷりある。相撲は一瞬で勝敗が
決まるので、真逆の競技ですが今はどちら
も楽しんでいます。

好きな言葉を教えてください。

「歩」です。将棋の駒の「歩」は一步一歩進み
ますが、力が出せる場になれば強さを発揮し
ます。私もいつでも力を発揮できるように、
クレヨン画の腕を磨いて行きます。今はまだ
「歩」です。

ファンの方へメッセージをお願いします。

夏がやってきますね。私は夏が好きです。
汗をたくさんかいてゼイゼイ言いながら絵を
描くと、運動をしないのに体力づくりを
しているような気分になり、それでいて絵が
進むので一石二鳥な心持ちがします。水分
補給と塩分補給は忘れません。夏は暑
に行かれる方もいらつしやいます。私は暑
い時期は暑いままに暮らすのが合っているよう
です。しかし、寒いのは苦手なので暖かくし
て過ごします。

原画は世界に一枚しかありません。この
機会にクレヨン画を肉眼でお楽しみください。

加藤休三先生、ありがとうございました！

加藤休三先生のサイン入り 絵本を3名様にプレゼント

応募方法 氏名、年齢、住所、電話番号をご明記のうえ、
ハガキでご応募ください。
あて先 〒939-0283 射水市鳥取50 射水市大島絵本館
加藤休三 サイン本プレゼント係
締め切り 2019年7月10日 消印有効
※発表は発送をもって代えさせていただきます。



『おさかないちば』
(講談社)

『おさかないちば』(講談社)
お父さんとお寿司屋さんで注文
したタイラギという貝のことが気
になった「くは、お寿司屋さん
の大将に魚市場に連れて行っても
らえることになりました。ピチピチ
ビチビチ魚のイキのよさが絵本か
らあふれ出します。





イベントレポート②

いわいとしおワークショップ

「ダンボールでつくろう!100かいだてのいえ」 3/24

大人気絵本「100かいだてのいえ」シリーズの作者、いわいとしお先生によるワークショップに約150人の参加者が集まりました。縦20センチ、横40センチ、奥行き8センチの箱型ダンボールを自分だけの「いえ」に見立てて、マジックやクレヨンで窓やドア、家具などを描きました。動物や恐竜、くだものなど、好きなものをテーマにした思い思いの「いえ」に、紙に描いて切り抜いた住人を置いて完成です。

材料を100個準備した今回のワークショップは、受付開始後わずか30分余りで受付が終了となる人気ぶり。そのためでしょうか、参加者は工作が大好きな人ばかり。あっという間に個性あふれる「いえ」が誕生していく様子に、いわい先生も驚いていらっしゃいました。

完成した100個の「いえ」はシアターのステージへと運ばれ、約20個ずつひもでつなげ、バトンに5列にして吊るします。先生のかげ声でバトンを少しずつ上げていくと、ステージに横たわっていた100個の「いえ」がすくっと立ち上がりました。迫力ある「100かいだてのいえ」に会場はもちろん、いわい先生からも歓声があがりました。最後に行った記念撮影では、子ども大人も達成感に満ちたい笑顔を見せてくれました。



イベントレポート①

こぐま座人形 3/17

♪べったんしたい べったんしたい

おむすびくりやれんかい…リズムカルなねずみたちの声がなんとも楽しい日本昔話「おむすびころりん」。歌やダンスを交えながら、絵本とは一味も二味も違う魅力で子どもたちをお話の世界に引き込みました。

続いて行われたミニコンサートでは歌のおねえさんや動物たちが登場。クイズをしたり、いっしょに体をうごかしたりして遊びました。中でも会場を沸かせたのは劇団のスーパーアイドル、ゴリラのゴンタ君。トレードマークの水玉のパンツをはいて、キレキレダンスを披露。ユーモラスな動きに大人も子どもも笑いが止まりません。フィナーレではおねえさんや動物たちが会場を歩きながら子どもたちと握手。「また会おうね!」と子どもたちは別れを惜しんでいました。



堀地 はるみ
国立青少年教育振興機構認定
絵本専門士

特集 / 絵本のある居場所

放課後の学校図書館

最近、絵本専門士になってよかったとしみじみ思う。絵本専門士は国立青少年教育振興機構 <http://www.njve.go.jp> が設置した委員会が認定する「絵本の魅力と可能性を伝えるスペシャリスト」である。

「絵本は人生に三度出合う」というノンフィクション作家柳田邦男氏の言葉を初めて聞いたのは十数年前、大島絵本館の講演会だ。人生を深めていく中で、小さな子どもでなくても誰もが絵本に触れていいんだ、絵本って素晴らしいんだと知った。そのことを伝えたくて、いつのまにか自分は絵本専門士になっていったのかも知れない。

今、ある小さな中学校へ出かけるのがとても楽しい。これはと思う絵本を抱え、放課後の学校図書館へ赴く。放送が流れ、絵本を見たい生徒が集まってくる。読み聞かせをしたり、誰かと読み合ったりする。静かに頁をめくる子もいる。図書館担当の先生と司書も一緒に、和気あいあいと絵本の時間は過ぎていく。

始まりは学習活動の時間に開いた絵本講座「絵本の魅力に触れよう」だった。講座を依頼される際に校長先生がおっしゃったのは、絵本のある心なご居場所を、学校に作りたいということ。絵本は豊かな感受性を育むから、と。

絵本講座で中学生に伝えた3つ
・絵本は子どもが初めて出会う芸術

・絵本は心を満たすもの、赤ちゃんと大人まで楽しめる
・頁をめくる時間を楽しむ、めくる速度は自由でいい

当日の流れは次の通り
① 目をつむって幼い頃の自分に戻り、絵と言葉が響き合う絵本の世界に入る。
② 文字がなく、絵だけで展開していく絵本を紹介する。頁をめくりながら、時の流れと物語の進行を味わってもらう。
③ 絵本は人生で初めて訪れる美術館でもあると話し、立体的な美しい仕掛け絵本を開いて紹介。
④ 各自好きなテーブルに行き、自由に絵本を楽しんでもらう。

たくさんさんの美しい絵本、楽しい絵本、懐かしい絵本、仕掛け絵本、科学や知識絵本、外国語の絵本など、机の上いっぱい広げられた絵本に生徒たちは想像以上に喜んでくれた。絵本は声の文学でもある。絵本を開いて誰かに語りかけ、読み合う時間もたらず温もりを大切にしたい。

うれしかったことは、講座をきっかけに、図書委員長のS君が声をかけ、全校総出でレイアウトを変え、展示をし、学校図書館を居心地の良いあたたかい場所にしてくれたこと。もちろんそこには、絵本が飾られている。

射水市大島絵本館 2019年度おすすめ絵本50冊

よちよちえほん

「まるさんかくぞう」
及川賢治・竹内薫子/作 文芸堂
「まんまるだあれ」
いまもりみつこ/文・切り絵 アリス館
「へっこ ぶつと たれた」
(わらべうたでひろがるあかちゃん絵本全3巻)
こがようこ/構成・文 降矢なな/絵 童心社
「とりがくるよ」
風木一ノ/作 たかしまつて/絵 KADOKAWA
「オフロケット」
ザ・キャンパン/バーニー/著 白泉社
「くだものどうぞ」(同シリーズ「おやさいどうぞ」)
きのしたけい/作 阿部 真由美/絵 コクヨ

むかしむかし

「ぶんぶくちやがま」
香山美子/文 篠崎三郎/画 教育画劇
「夢金」(「古典と新作らくご絵本」シリーズ全10巻)
立川談春/文 寺門孝之/絵 ばけいんち/編 あかね書房
「わらしべようじゃ」
(「日本昔ばなし絵本」シリーズ全5巻)
植垣歩子/作 あすなろ書房
「クマと少年」
あべ弘士/作 プロダクション

めいさく童話

「マッチうりのしょうじょ」
やなぎやけい/文 町田尚子/絵 フレーベル館
「雨ニモマケズ」
宮沢賢治/作 楠木功太郎/絵 三起商行

人・いのち

「ねるじかん」
鈴木のりたけ/作・絵 アリス館
「けいごのハチ」
門田隆将/文 松成真理子/絵 小学館
「あめだま」
ベクセナ/作 長谷川義史/訳 プロダクション
「きょうがはじまる」
ジュリー・モースタッド/作 石津ちひろ/訳 BL出版
「りぎしのほし」
加藤休ミ/著 イースト・プレス
「ルリユールおじさん」
いせ ひでこ/作 講談社
「みえるとかみえなとか」
ヨシタケシス/作 伊藤亜紗/相談 アリス館

いきもの

「うみのごちそうくら」(「おもしろくら」シリーズ既刊4巻)
柴田ケイコ/作・絵 PHP研究所
「イカタコつるつる」
長 新太/作・絵 講談社
「ねこです。」
北村裕花/作 講談社
「ゆうたのおじいちゃん」
(「ゆうたくんちのいびりいぬ」シリーズ既刊11巻)
きたやまようこ/作 あかね書房
「いちばんどり いちぬけた」
日隈みさき/作 あかね書房
「キラキラとほしがかがやきました」
(「ティラノサウルス」シリーズ既刊15巻)
宮西達也/作・絵 ポプラ社

のりもの・ファンタジー

「こわめっこしましよ」
tupera tupera/作 絵本館
「めんたべよう」
小西英子/作 福音館書店
「オニのサラリーマン しゅっちょうはつらいよ」
(同シリーズ「オニのサラリーマン」)
富安陽子/文 大島妙子/絵 福音館書店
「ワタナベさん」(同シリーズ「オオイシさん」)
北村直子/作 偕成社
「しゅくばんちゃん6しまい」
ささき みお/作・絵 鈴木出版

しぜん・かんきょう

「おきき本」
シェリル・シルヴァスタイン/作 村上春樹/訳 あすなろ書房
「ふるふるフルーツ」
ひがし なおこ/作 はらへこめがね/絵 学研
「すいかのプール」
アンニョン・タル/作 斎藤真理子/訳 岩波書店
「くるみのなかに」
たかお ゆうこ/作 講談社

こよみ

「サンタの いちねん トナカイの いちねん」
きしら まゆこ/作・絵 ひさかたチャイルド
「お正月がやってくる」
秋山とも子/作・絵 ポプラ社

ものしり

「チューリップ」
荒井真紀/作 小学館
「実物大!世界のどうぶつ絵本」
ソフィ・ヘン/作 藤田千枝/訳 あすなろ書房

「みずとはなんじゃ?」

かことし/作 鈴木まもる/絵 小峰書店
「ゆかいなアルファベットだいつかん」
アラン・サンダース/作 高津由紀子/訳 外山節子/監修 偕成社
「じゅんのはたにはなにがある?」
中川ひろたか/文 山本幸/絵 アリス館

詩・ことばあそび

「ようかいりとり」
おくはらゆめ/作 こぐま社
「ゆき」
はたこうじろう/絵 ひさかたチャイルド
「ももも すももも」
新井洋行/作 講談社

芸術

「びじゅつかんへいこう」
ピーター・レイノルズ/絵 スーザン・ベルデ/文 ながわちひろ/訳 国士社
「すごいぞ!ニッポン美術」
結城昌子/文 西村書店

しかけ

「三国志・燕虎物語」
島崎藤村/作 ざいひろし/ペーパー・エンジニアリング監修 大日本絵画
「ベネロバ ルーヴルびじゅつかんにい」
アン・グッドマン/文 ゲオルグ・ハンスレーベン/絵
ひがし かずこ/訳 岩崎書店
「ひよこのチャーリー」
ニック・デンチフィールド/作 アント・バーカー/絵
対馬 望/デザイン 東京書店

つくろう・あそぼう

「おしりたんてい プブック ゆきやまのしろい
かいづつ?」(「おしりたんてい」シリーズ既刊7巻)
トルロ/作・絵 ポプラ社

私のおすすめ絵本

『大きな木のような人』

いせ ひでこ/作
講談社



人はみな心の中に、一本の木をもっている。あなたのその木は、幼い頃から育んだ心の土壌にしっかりと根を張り、生き生きと瑞々しく葉を繁らせているだろうか? パリの植物園を舞台に、人類植物学者と日本から来た少女との交流を描く。続「ルリユールおじさん」。

『しずくのぼうけん』

マリア・テリコフスカ/作
ボフダン・ブチンコ/絵
福音館書店



バケツから飛び出した水のしずくが、ひとりぼっちで旅にでるお話。ユーモラスな絵とリズムある文章で水の循環を描き、楽しい。ポーランドの古典絵本。

『おやすみ』

ながわかれこ/作
やまわき ゆりこ/絵
グランママ社



二匹の仔犬がたくさん遊んで、満足して眠るまでを描いている。幼い子が共感する語りかけ、温もりのある絵。一日の終わりに明日が楽しみになる。同じく「おはよう」もある。

『うさぎがきたおと』

かみじま あきこ/お話
さら/絵
Book&Design



一冊一冊が手づくりで製本されている。木版画の美しい絵本。詩のようなお話。紙の手ざわりが、なんともいえずやさしい。印刷は富山の山田写真製版所。

『ぼくにげちゃうよ』

マーガレット・ワイス・ブラウン/文
クレメント・ハード/絵
いわた みみ/訳
はるぶ出版



青い空、風になびく緑の草むらで、白うさぎの子が母うさぎに一生懸命話しかける。子うさぎと母うさぎの追いかけてこのような会話が微笑ましい。母の愛情を確かめて安心する幼い子の気持ちを描いている。やさしい絵。

『旅する風』

新宮 晋/作
BL出版



朝、生まれたばかりの風が、森や砂漠、海を吹き抜けて旅をする。鮮やかな色彩。造形が美しく立ち上ってくるしかけ絵本。

あべ弘士 絵本原画展
とき/7月20日(土)~9月19日(木)
展示原画
「クマと少年」(プロダクション新社)
「ねこのおしやさん」(そつえん社)

藍染め屋 aya展(仮)
とき/8月31日(土)~9月13日(金)
銅版画工房展
とき/8月14日(土)~10月1日(火)

カフェギャラリー
とき/9月16日(祝日) 14時~
出演/林こと子 ソプラノ ほか

8・9月イベント
シアター・パフォーマンスホール
開館25周年記念感謝デー
絵本館まつり 入館無料
とき/8月18日(日) 9時30分~16時30分
出演/シンキロウ
年に一度のお祭り。絵本マーケットやミニ縁日など今年のステージショーはシンキロウさんのマジックショーもぜひご期待!